

分布：全国

ジャノヒゲ (キジカクシ科)

オフィオポゴン ヤポニクス
学名: *Ophiopogon japonicus*

蛇の髭

別名：リュウノヒゲ(竜の髭)、ネコダマ(猫玉)、麦門冬(ばくもんとう)、はずみ玉

主な生育場所

林床や林縁、樹木の根元、路傍、草地などに生育する。落葉樹林の落ち葉がよく積もる木陰などに多い。やや日陰を好むが、日当たりのよい場所でもみられる。公園や庭園に植えられることも多い。

特徴

短い走出枝を伸ばし群生して増える10~15cmほどの多年生。幅2~3mm、長さ10~20cmほどの細長い葉を多数根生し株状となる。7~8月にかけて高さ7~18cmほどの花茎を出し、ややまばらな花序をつける。6花弁で径約7mmの花は白色あるいは淡紫色。花後にできる径7mmの球形の種子は冬期に瑠璃色に熟してよく目立つ。



名前の由来：能面で老人を表す「尉(じょう)」のお面にはあごひげがあり、このあごひげに細い葉を見立てて「尉のひげ」(じょうのひげ)。これがジャノヒゲに転化した。

<農業との関係>

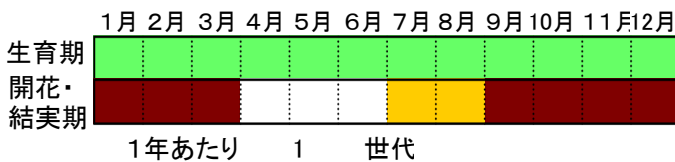
畑や水田内に生えることはなく、邪魔になることはない。一方、ジャノヒゲや園芸種で草丈が低い「タマリユウ」は、乾燥や冠水にも強く扱いやすいため、畦畔法面の管理を省力化するカバープランツとして利用される。例えば、タマリユウを10cm間隔で植え付けると約2年間で全面を被覆し雑草抑制に有効である (https://www.naro.affrc.go.jp/org/warc/research_results/h19/01_sakumotu/p21/index.html)。



樹木の根元に群生するジャノヒゲ

<生活史>

関東地方の例(目安)

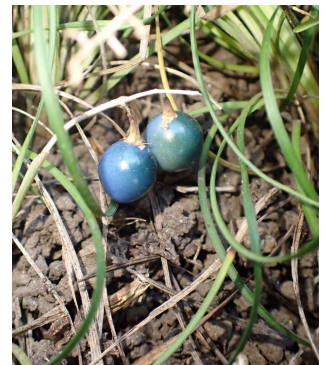


<類似種>

ヤブランの草丈は20~40cmほどとなり、葉も広く、花穂が長区伸びる。また果実はジャノヒゲの鮮やかな瑠璃色に対し黒色。日当たりのよい場所にみられるツルボの花期はジャノヒゲよりもやや遅く、小さな花を穂状に密につける。

<一言うちく>

これからの季節、ジャノヒゲの光沢のある瑠璃色の種子がよく目立つようになります。この種子、かなり弾力性に富み、アスファルトなどの地面に投げつけるとまるでスーパーボールのように強く弾みます。園芸種のタマリユウでも同じような実がなりますので、採って試してみてください。



熟すと鮮やかな瑠璃色となる種子

<人との関わり合い>

肥大した根を夏期に掘り上げて水洗い後、乾燥させたものは麦門冬(ばくもんとう)と呼ばれ、昔から滋養強壮、咳止め、去痰、利尿などに利用されてきた。また、四国などでは湯がいた茎は油揚げなどと一緒にはっきりと煮こんで食べる。タマリユウも含め作庭やランドカバーにもよく利用され、植え込みの前景などに使われる。冠水にも強いので、最近では観賞用の水草と扱われることもある。熟すと光沢のある瑠璃色の種子は、冬枯れの野で良く目立つので、冬の季語として多くの俳句等にも詠われてきた。

<俳句や短歌への登場>

【季語：蛇の髭、麦門冬=夏、竜の玉=冬】

一日のほんの日当り竜の髭 (角 光雄) 行わたる掃除や藪に麦門冬(清民)

竜の玉深く蔵すといふことを (高浜虚子) 竜の玉などもてあそぶ日もありぬ (山口青邨)

ひたぶるに念佛いたせ龍の玉 (辻桃子) 地球またかく青からむ龍の玉 (鷹羽狩行)